第６期第４回北区男女共同参画審議会　会議録

日　　時：平成３０年１月１６日（火）午後６時３０分～午後８時３０分
場　　所：スペースゆう　多目的室ＡＢ

１　開　　会

２　議　　題
（１）北区男女共同参画行動計画「第５次アゼリアプラン中間の見直し」の報告について
（２）「男女共同参画に関する意識・意向調査（平成３０年度実施予定）」について
（３）その他

３　閉　　会

出　席　者	奥津会長	平野副会長	山田委員	植木委員
	浅賀委員	丸山委員	眞庭委員	関委員
	小澤委員	熊澤委員	元井委員	やまだ委員
	青木委員	小林委員	栗原委員	
	藤野男女いきいき推進課長			
欠　席　者	中澤委員	田草川委員	栗橋委員	岡﨑委員
	道本委員			

審 議

○藤野課長

第６期第４回の北区男女共同参画審議会を開会したいと思います。

○奥津会長

では、皆様のご協力をいただきながら、審議を進めてまいりたいと思います。

まず、最初の議題ですが、第５次アゼリアプラン中間の見直しについてということで、事前にこの資料も送られてきましたけれども、まず、事務局から報告をお願いいたします。

○藤野課長

「第５次アゼリアプラン中間の見直し」についての説明

○奥津会長

ありがとうございました。

皆様、前回、ご意見をお出しいただいて反映されているでしょうか。よろしいでしょうか。

前回のご議論、とてもいいご議論をいただきましたが、一つ、全てに共通することですので、ぜひこれは強調したいと思ってまいりましたのが、高齢者の虐待について、男女共通の問題ですというお話で、それは女性にとってより深い意味があるんですかと聞こうとしたら、いや、共通ですというお話がありました。それはそれで大変貴重なご意見だと思っております。そのとおり反映して、これからやっていただけるということでよかったと思っております。

ただし、国連の「高齢化に関するマドリッド国際行動計画２００２年」の中で、「男女の高齢化問題は、寿命の長さや高齢期の割合も違うということから実は同じではない。」とあります。

更に女性は、意思決定の場に参加する機会もないとか、あるいは、良質な労働の機会を失われるとか、能力があっても活動でそれを生かす機会がないとか、あるいは、相手に抑制されるとか、それから、良い職場を得たとしても男女差別主義などで、不利益に取り扱われるということで、総じてキャリア開発の機会に恵まれなかった。そういうことが、結果的に積み重なって、年金も男性に比べれば、不利になりがちだし、預金、その他の経済的なものも、全員ではないですが不利になりがちです。人間ネットワークとか社会的ステータスに対する尊敬を得るような、そういうことについても、やっぱり不利になりがちだということが全部積み重なって、最終的に高齢期に差別とか偏見とか取り扱いの軽視につながりやすいと指摘されています。

本来、虐待は絶対いけないんです。男女どちらにもいけないですが、同じということだけで片づけられない問題がありますよと、高齢化について書いてあります。それと同じで、男女共同参画という社会があったかなかったかで、結果として最後出てくるという意識もありましたので、ここのプランの中にそれを入れていただいたということを私としては強調して、お話をさせていただこうかなと思いました。共通の問題

というよりも、そうですが、そこにさらにあるということも意識していきたいなと思っております。

では、この意識調査について、皆様にご議論をいただきたいと思います。

まず、事務局から説明をお願いいたします。

○藤野課長

「男女共同参画に関する区民意識・意向調査（平成３０年度実施予定）」についての説明

○奥津会長

一般区民、企業、町会・自治会、そして中学２年生に対する調査ということでしたが、今回のアゼリアプラン見直しでもつけ加えていただいたものを調査しているかなど、今後の計画に、もう少し入れておくべきであるとか、そういう大きなテーマとか視点とか何かお気づきのことがありましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

○青木委員

５年前と比べて、５年間でこれだけ設問の内容が変わるんだなということを改めて実感をいたしました。この５年間は、男女共同参画だとか、人権ということが大きく進んだのかなというふうに、この設問を見ても感じました。全体的にやはり設問の数も多くて、答えるのも自分でやってみたんですけれども、結構、大変だったなというふうに思いました。

それで、特にこれということはないんです。今は感想ですけれども、区内在住の方々に質問している中の１２ページで、セクシュアルマイノリティに対する一番最後の問２９－３で、思わないという方に対してだけ意見を聞くようになっているんですが、逆に、私は思うというふうに回答された方にも、どうしてそういうふうに思うのかということをお聞きしたいなというふうに思ったものですから、そこのところはどのようにお考えか、ご説明いただければと思いました。

○奥津会長

それでは、課長、よろしくお願いします。

○藤野課長

思わない人の意見を吸い上げたいと思いまして、そこが反映されてしまっております。なので、おっしゃるとおりだと思います。思う、思わない、どちらでも意見を聞くべきだと思います。

○奥津会長

ということで対応されるということですが、いかがですか。

この取り組みというのは、区のような、公の取り組みをおっしゃっているのか。個別のことまでを言っているのかというのは、答え方が違ってこようかと思いますが。

期待されているのは何でしょうか。

○藤野課長

そうですね。思わない方の意見を聞きたかったのが、これは少し偏ったあれなのかもしれないんですけれども、やはり性的志向についての理解が不足しているんではないかなと。性自認のほうは、ある程度理解できても、それには十分な啓発が必要であろうというところを導き出したかったので、こういう問いになっているんです。なので、会長がおっしゃるとおり、人権を守る取り組みとしてしまうと、それこそパートナーシップ制度が必要だとか、そんな話に、もうちょっと大きな話になってしまうかもしれないので、少し設問の仕方を変える……

○奥津会長

ご検討ください。とりたいものがとれるようにということで、お願いします。

○小澤委員

まず、区民対象の調査の性別のところで、区民の方が最初の１問目から戸惑うことがないように、少し工夫をしていただいたらどうかなと思いました。一般区民の方の回収率が少ないのは、設問も多いし、見てうんざりしてしまうということもあります。問２２の選択肢１０番ＤＶに関してなんですが、他人に知られると、これまでどおりのつき合いができなくなると思ったから、これは確かにそうなんですが、もっと深刻な願いというか思いとして、誰にも知られたくないという、そういう思いがあると思うんですね。そのような言葉が入るといいかなというように思いました。

それから、同じくＤＶの、問２４、選択肢１番です。意識の啓発、周囲の理解というように、これは周囲の方の理解がとっても大切なので、そういうわかりやすい言葉もつけ加えていただいたらと思っています。

あと、ほかの対象者の調査でも、問３２、北区苦情処理委員会を設置したことを知っている。これは内容についても知っているというのがあるんですが、内容を知っている方は少ないと思うんですね。これは、設置されたか、されていないかという問いにして、内容は脚注でつけたほうが理解を広めることになるんじゃないかなというふうに思いますがいかがでしょうか。

それから、育児休業、介護休業、子どもの看護休暇、介護休暇を利用しなかった理由を尋ねたほうがいいと思います。

中学生対象の調査を１ページの問２、家事についてですが新聞報道で中学生とか高校生が家族の介護をしているというのがあるので、掃除・洗濯、家族の介護も、お聞きになったらどうかと思います。

２ページ目の問７の進学について。これは、その他の前に、海外留学とか、そういう国際的視野を持ってもっと学びたいという中学生がいらっしゃるかどうかというのも知りたいなと個人的に思っています。

それから、２ページ目でデートＤＶについて聞いていますが、アゼリアプランの中間の見直しの中にも、高校生及び小中学生のＪＫビジネスとか、アダルトビデオへの

出演被害、そういう被害があると聞いたことがありますかという選択肢があっても良いと思っています。

○藤野課長

まず、区民２，０００人を対象とした調査の性別をお聞きするところの唐突な、その他ですね。これについては、やはりその設問の仕方、どうしてこのような選択肢を設けたかというのは先ほど申し上げたとおりですけれども、他区の例なんかも参照にしながら、その他というような表現にしています。例えば、あなたの性自認について、お答えくださいという選択肢にするか。ただ、そうすると、それもやはりきちんと理解が深まっていない中で、何だこれと……

○奥津会長

どう聞くかというのは、大変大きな問題なんです。簡単に「その他」になっておりますが、あなた自身について自認している、性自認で、あなたが該当するのはどれですか、１、２、どちらでもないというのもあるでしょうし、戸籍上、いろいろあるでしょうから、誰が何を選択しているかわからないという問題があります。また、何がとりたいのかというのは一つありますし、とった以上は分析をするのかと、これはどういう問題が起きるかとか、いろいろありますので、内閣府に問い合わせをされてお調べいただき、ご回答いただくのがよろしいかと思います。ぜひ、そういうことでお願いします、調べてください。

○藤野課長

分かりました。そのようにさせていただきたいと思います。

それから、二つ目にご意見をいただきました、本日、席上にお配りさせていただきましたクリップどめした前回の意識・意向調査です。これの２０８ページをごらんいただきまして、これがまさにこういった形式で聞こうかなと思っております。

それで、小澤委員からご意見があったように、ちょっと内容が重複しているようなところも整理できるかなというところがございますので、そこは精査させていただきたいと思います。なるべくうんざりしないように、分厚くならないように考えたいとは思っております。

それから、問２３－３のところで、誰にも知られたくないという表現、まさにいいなと思いますので、そういった表現も加えさせていただきます。

それから、問２４のところでは、啓発と周囲の理解という言葉を加えさせていただきます。

それから、問いの３２番でしたよね。苦情解決、そうですね。他区のアンケート用紙を見ると、先ほど中学生に対してのデートＤＶのところでもお話ししたんですが、この調査そのものを普及啓発にも利用しているという――参考になるなと思ってみたんですけれども。例えば、配偶者暴力の設問のところで、相談したことがありますか、ありませんかで終わらせないで、そこにここに相談できますよと、もう連絡先も書いてあったんですね。なるほどなと思って、そういった工夫ができるなと。なので、こ

の苦情解決委員会についても恐らく知らない、内容を知っている人はいないと思いますので、そこをキャプション等で注釈を入れるなりして、啓発のほうにそういった内容も含めた設問にしたいと思います。

それから、企業対象向けの育休を利用しなかった理由、育休とか介護休暇とか、さまざまな制度を利用しなかった理由についても聞けるような選択肢をふやしたいと思います。中学生に対してのアンケートで、家族の介護、そうすると、何か兄弟の世話とか、そういうのも入れたほうがいいのかなと思ったりもしました。

それから、海外留学というところも、表現の仕方はちょっと調べさせていただきまして、その選択肢も入れたいと思います。

それから、最後、いわゆるＪＫビジネスとか、そこら辺のお話、設問ですけれども、やはり中学２年生を対象にした調査で、デートＤＶを入れるというのもすごく皆さんからのご意見はどうかなと思ったんですけれども、ＪＫビジネスのところについても、その設問の仕方はここから何かクラスで悪い、いろいろ配慮しなくてはいけない部分だとは思いますけれども、適切な設問、ＪＫビジネス等の認知度などについても質問できるようにしたいと思います。

○奥津会長

大体、今、お答えいただけるのはそんな形ということで、後ほどよく検討いただきたいと思います。

ほかに先生方、いかがでございますか。

○眞庭委員

町会・自治会の調査ですが、災害時における女性の相談態勢の構築ということがあって、ここは自由回答になっていますけれども、選択肢を入れて丸をつけるような形でないと、回答が出てこないのではないかなと思っておりますが、その辺のところ、少し考えていただけたらと思います。

○奥津会長

工夫できますか。

○藤野課長

はい。

○奥津会長

今すぐというわけにはいかないでしょうから、工夫していただいて、案をお知らせください。お願いします。

○山田委員

区民調査からいきますと、先ほども小澤委員から言われたその他ですけれども、確かに先日、ドイツで第３の性の登録が認められて、四、五カ国はあるんですけれども、

さすがにそれは極めて少数なので、なくてもいいかなとは思います。

まず、Ｆ３－１ですが、カテゴリーがこれだけではないので、配偶者がいる方には、あなたの働き方と配偶者の働き方を自営も含めて別々に聞くのが普通で、例えば夫婦とも自営とか、その他を入れておかないと、少なくともつけられない人がたくさんいます。

次は、新たに加わった２ページ目の問１の選択肢の「話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である」といったときに、これに反対する人が２パターンいるわけですよ。つまり、話し合いを経なくても、女性であるというから、これには反対だという人と、いや、子どもの数や出産間隔を決めるのは、女性じゃなくて男性であるという意味で反対する人がいるので、なるべくこういう質問はやめたほうがいいですね。

問２の選択肢ですが育児や介護が当然、家族に発生しないケースはたくさんあります。町会・自治会等の地域活動もそうで、やっていないとか、当てはまるものはないという選択肢、あるいは、誰もしていない、もしくは仕事がないという選択肢がないとつけられないと思います。

働いている理由の問４－１から問５までが、どうも子育て期の女性を念頭に置いた質問であって、男性や中高年で働いていない人のことは余り関心がないというか、このことを配慮した調査票ではないですよね。子育て期の女性の調査をするというのならこれで良いですが、高齢者で働いていない女性などがこの質問を見ても、違和感がないような選択肢をつくる必要があると思います。介護施設に入れるとか、そういう選択肢があってもいいような気がしました。

問１０「あなたやあなたの配偶者が出産する場合」という質問を、６０、７０代の独身者の人にして、何か意味があるのかなと思います。この質問があってもいいですが、回答を集約されるときは、そういう２０、３０代の人が答える回答と６０、７０代の人が答える回答がミックスされて出てしまい、その回答結果を読む人は、そこは無視して、「今の若い人は育児休業を利用するつもりはないんだな」というふうに見てしまうかもしれない。このような調査は、高齢者の方の回答率のほうがはるかに高いので、それに影響されて、本当に知りたいことを知れない可能性はありますよね。

というのを注意していただければと思うのは、前回の調査報告書でびっくりしたのは、意向調査の報告書の６ページで、通常、こういうぶれはあり得ないですが、図表１を見ると、北区では継続就業を希望する人が非常に少なくて、内閣府の調査では過半数を占めているのにというのがあります。これはやはり調査対象者に高齢者が偏っているからのような気がしますね。このような点を配慮していただきたいというのが一つです。

次に、問１５の健康診断についてですが、配偶者の勤務先でただで受けた場合、どこにつければいいんでしょうかね、つまり、選択肢に全て尽くされていないという点で穴があります。

あと、調査項目７の地域活動についてです。２０、３０年前というのは、趣味活動とか学習活動とかボランティアというのは、地域で活動するというのが多かったですが、今は地域でつながるのではなくて、ＳＮＳとか友達とか、地域の外でつながる場

合が多いです。ＰＴＡ活動でさえも、私立中に入れている人は地域の活動ではないですよね。もちろんこういう調査をするのも構わないんですが、ただ、地域活動とはみなされない活動がかなり多いということを少し頭に入れておかなくてはいけないと思います。だから、地域で行っている活動、それは地域で行っている活動なんですか、それとも、地域をまたいだ活動なんですかみたいなのを本当は入れると、目的にはかないますよね。

例えば、趣味的活動をやっている人の何％でもそれが地域で行われているか、行われていないか。自治体の調査だと、それは結構重要かなという気はします。

次は、８ページの問１９ですが、ハラスメントを受けたことがあるとありますよね。選択肢４というのは、意味としては、選択肢１、２、３、の３つを見たことがあるという意味ですか。

○藤野課長

はい。

○山田委員

分かりやすくするなら選択肢１、２、３について、受けたことがあるか、見たことがあるか、順に聞けばいいと思います。自分ではないけれども、家族や友人でこういうことをされたことを知っていますか。あるいは受けたことがある人を知っていますか。のほうが質問としては答えやすい思います。

問２２ですが、事例だけがやたら細かいですよね。「別れた恋人や配偶者に対する報復として、わいせつな写真や映像をインターネットなどで不特定多数に公開された」、については少し一般的にした方が良いと思います。つき合っている映像とかを不特定多数に配布・公開されたぐらいで良いのではないでしょうか。

問３３で、議員のもいらっしゃいますから、「政治の場」を入れておいてもいいかもしれないですね。

○奥津会長

文言については、別途、それぞれの先生にお聞きする、そんな形で確認していただきたいと思います。

それから、今の山田先生のご指摘にもありましたけれども、深掘りしないままにあえて聞くから問題が出てくるので、簡単に焦点をきちんと絞れるというのをまずやっていただいたほうがよろしいと思いますね。

公表するときにどういう分析をするのかというのをやはり整理してから、もう一度、私どもに確認していただければ、この調査はよろしいんじゃないかと思います。

○山田委員

企業対象調査の問９「２９年度中に育児休業制度の対象者はいましたか」というところで、これは男性何人、女性何人と聞く必要があると思います。つまり、従業員の男性の妻が子どもを産んだら育児休業の対象者ですよね。報告書の１７ページ図表の

２－９ですが、対象者がいた１１社、対象者がいなかった２４社。つまり、２４社がこの一、二年のうちに従業員で、男性も含めて、子どもが生まれた人が一人もいないなんていうことは、多分あり得ない。統計的にあり得ないと思います。

つまり、これを回答している人は、男性が対象者になるということは、つゆほど考えておらず、妊娠した正社員の女性がいなかったなといって、ゼロと書いているはずなんですよ。だから、今では男性も対象者になったので、注意書きでもいいので、子どもが生まれ、父親になった男性も対象者に含まれますと書いておかないと、本当の数字にはならないですよね。これが一番大きなところです。

○奥津会長

これも対象というのは、法律上のいろんな整理の仕方がありますよね。だから、取得するのははっきり取得ですけれども、対象となると、また違った書き方になりますので、何がとりたいのかをよく整理していただいて、それに合わせて質問をつくっていただければよろしいかと思います。

時間が迫りましたけれども、ほかに、ぜひ、検討いただこうということがありましたらお願いします。

○山田委員

中学生対象調査の問１で、あなたの父、母についてお聞きしますというときに、これも両方そろっているということを前提にした聞き方なので、あなたのお父様は、今は一緒に住んでいないというのを含めて、どういう仕事をなさっていますか。お母様はどういう仕事をなさっていますかということでとらないと、父だけ働いているというときに、父子家庭なのか、それとも専業主婦なのかというのは、上と組み合わせれば分かるのですが、それも注意していただきたいですね。

○藤野課長

今のお話、ちょっと逆にお聞きしたいことがありまして、実は、この設問をして、分析している部分が余りないんです。どういう分布か、構成はもちろん出していますけれども。例えば、それでクロス集計をしているという部分が実際にないんですね。前回はないから、今回もないということではないですが、この設問が有効かどうか、聞いたほうがいい設問なのかどうかというところがちょっと……

○山田委員

社会学、教育社会学では、母親が働いているか働いていないかということが子どもの意識にどう影響するかは非常に重要な点ですけれども、そこまで求めないという考え方もあります。

○藤野課長

重要なものであるのであれば、ぜひ、今回については、クロス集計などで分析した

いと思いますので。

○奥津会長

総合的にお考えになったほうが良いと思います。今、山田先生は、社会学、教育社会学としてはということをわざわざ強調してくださったように、他の観点もあります。多分、いろいろな意味で、政策的な問題とか、いろいろお考えになって決められたらいいと思います。

前回、余りクロス集計ができなかったのは、やはり質問して、要望もいたしましたが、記憶ですけれども、区のほうのパワー、お金も人のほうのパワーも限りがあるので、このあたりというような回答がありました。それは恐らく正直なお返事だったと思います。だから、今回、どこまでおできになるか、そこも考えながら調査項目全体を整理される必要があろうかと思います。それぞれの先生がまだまだご注文があると思いますので、個別に後で確認されるなり、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ぜひ、ご指導いただければと思います。

では、とりあえずこの意向調査、皆様のご意見をいただいたということにしたいと思いますので、お取り扱い、ぜひ、よろしくお願いいたします。

一応、重要な議題は、本日、これで終わったということになりますので、次に、事務局から今後の予定などをお知らせいただきたいと思います。そのときに先生方のご意見を伺うということであれば、ご協力をお願いされたらよろしいかと思います。

よろしいですか。

○青木委員

平成３０年度に関して、北区では、さまざまな調査が行われるというふうにお伺いしております。この男女アゼリアプランだけではなく、そのほかの基本的な調査を各種行うというふうに聞いておりますので、対象者はそれぞれ違ったり、目的が違ったりしていることもありますけれども、設問として同じようなことを聞くということもたくさんあると思いますので、今回は、この男女共同参画に関する意識・意向調査の内容ですけれども、これはこれで精査をしていただいた上で、そのほかの意向調査と重複するようなところもたくさん出てくるかと思いますので、全体的に区として、その辺を調整をしていただくということはできないのかなというふうに思いました。

○奥津会長

これは区のほうでいかがでしょうか。要するに、他の部局と調整をして、これが一番答えやすい調査になるようにしていただきたいということだと思います。

よろしいでしょうか。平野先生、何か議論を聞いていただいて、一言。

○平野副会長

そうですね。私も幾つか思い当たるところがあるんですが、それはまたちょっと後日、ご連絡させていただくことにしたいと思います。

質問数としても、前回と比べて、特に一般男女の調査なんかはかなり膨張している

ような状態で、なかなかアゼリアプランのその目標なんかと照らし合わせると、もう少しこれについて詳しく聞いたほうがいいのではないか。例えば、人権なら人権とか、介護とか育児とかという話をもう少し突っ込んだ形で聞いてもいいかなと思います。山田先生がおっしゃっていたように、やっぱり対象者が非常に広くて、そこを絞ったものでないと、なかなか難しいといったところで、何となく広い範囲で、少しずつ聞いていくといった形にどうしてもなってしまっているのかなというふうには思いますが。

結局、最終的にすごく大きな枠組みの結果しか出なくなってしまう可能性というのがあって、そこのところが難しいなと感じています。それを最終的にどう使うかといったところが大事ですので、もう少し分野を絞ってもいいのかなと思いました。

○奥津会長

ありがとうございました。

では、これで全ての議事が終わったと思いますが、議事録について確認したい方は、事務局までおっしゃってください。よろしくお願いします。

では、よろしいですか。

皆様、どうもありがとうございました。これで審議は終了いたします。